



小豆島が大きな力をくれた映画です

知事 恋愛を描く監督として高く評価されている今泉力哉さんが、このたび香川県小豆島出身の山本崇一朗さんによる人気コミック「からかい上手の高木さん」の映画のメガホンを取られました。テレビではすでにドラマの放送が始まり、映画もいよいよ5月31日に封切りですね。

今泉 今回は、小豆島の風景の中で撮影すること非常に意味がありました。映画を見ていただければ分かりますが、純粹で真つすぐな二人の話です。小豆島のあの景色の中で撮影することで、説

映画監督

今泉 力哉

1981年福島県生まれ。2010年『たまの映画』で商業監督デビュー。主な作品に『愛がなんだ』、『街の上で』、『ちひろさん』など。現在公開中の、香川県小豆島で全編撮影された、映画『からかい上手の高木さん』の監督を務める。



©2024映画『からかい上手の高木さん』製作委員会
©山本崇一朗/小学館

シリーズ累計1200万部突破の山本崇一朗の大人気コミック「からかい上手の高木さん」(小学館『ゲッサン少年サンデーコミックス』刊)が実写映画化。永野芽郁さんが高木さん役、高橋文哉さんが西片役で初共演。10年の時を超えて紡がれる、最高に愛おしい、初恋の物語です。

得力が出ました。小豆島で撮影できたことが、映画の大きな魅力になったと感じています。

知事 私も映画を拝見し、心が洗われました。今お話を伺って、小豆島の海や山が借景のような役割を果たし、より二人の純粹さの描写を引き立てているんですね。瀬戸内の島々で開催される瀬戸内国際芸術祭においても、「作品の背景に海や島の風景があることで、さらに作品に魅力が生まれる」といろいろな方から言われますが、それとも重なり、風景の力のようなものを改めて感じるお話です。

今泉 映画の中に映し出される景色もそうですが、俳優たちがそれを目にして演じるという部分でも大きな影響があります。西片役の高橋文哉さんは、撮影中に仕事で一度東京に戻ったのですが、「もう東京の水が合わない」と冗談で言うくらい島の環境に魅せられていました。また、昼間

知事対談 今泉 力哉 × 池田 豊人

IMAIZUMI RIKIYA IKEDA TOYOHITO

穏やかで繊細な海と映画

ける中で分かったのは、映画の魅力は多くの力を結集して作ることだということです。俳優やスタッフアイデアを出しやすかったり、チャレンジできる状況を作ったり、みんなが伸び伸びとできる現場を考えています。若いスタッフたちが、「楽しかった。またやりたい」という気持ちになってほしいと意識しています。それが報われた気がしました。

知事 映画作りは独特な世界と想っていました。今のお話はさまざまな職場で共通することですね。私も小さな成功体験を大事にしたい。一人

一人が「うまくいって良かった」という体験がある。と、またもう一度やってみたいと思えます。そういう思いを広げていきたいと日々考えています。それにしても映画では告白するかどうかかどもどかしくて、見ている方がやきもちしました。終盤のシーンはいつまでも心に刻まれる名場面の一つだと思えましたね。

今泉 好きな人がなかなかできない、自分の好きという気持ちに自信が持てない、そういう方たちの感想でよく聞くのは、恋愛映画のハードルが高すぎるといことです。たいてい相手を好きという前提で話が進むのですが、好きという気持ちほもつと曖昧だったり、相手の好きと自分の好きが違うんじゃないかと疑ったり、友情から踏み出す不安が大きかったり、そういう繊細な悩みがあると思います。そういうことを丁寧に映画で扱って、知事がおっしゃってくださったように時間がたつてからも心に残るのではないかと思います。

香川県知事 **池田 豊人**
知事 映画も海も穏やかで繊細なものは、心に残るんですね。昨年はG7の都市大臣会合が高松市で開催され、各国の大臣を直島までご案内しました。もちろん直島も喜ばれたのですが、道中の船旅で歓声を上げてくださるんです。静かな海が魅力的だと口々に褒めてく



ださいました。監督がよく行き来された駅周辺はサンポート高松地区といつて、再開発が進むエリアです。日本でもこれだけ港と駅が近接している所はまれではないでしょうか。都会的な街中にぎわいの近くに海があり、少し足を延ばせば島があり、自然豊かな山もあります。2025年の春には県立アリーナが完成して、ますます駅周辺は便利になると考えています。ぜひこれをご縁に何度でも来てください。今年瀬戸内海国立公園指定90周年にあたり記念事業もいろいろと行われます。ロケ地巡りも含め、見応えのある香川県です。今泉監督にも、ぜひ香川を巡っていただき、さらなる魅力を見いだしていただければ幸いです。本日はありがとうございました。



香川県には世界に誇る海があります